

第1部
序章

1

1. 計画策定の意義



総合振興計画は、長期的なまちづくりの方針や将来像、その実現のための手段などを、総合的、体系的に示すもので、自治体の最上位計画です。鷹栖町では昭和38年以降、これまで7次にわたって総合振興計画を策定し、計画的かつ戦略的にまちづくりを進めてきました。

令和2年度からスタートした「第8次鷹栖町総合振興計画」では、“笑顔 幸せ みんなでつくる あったかす”をまちの将来像として掲げ、「町民」「行政」「連携」それぞれの決意を示し、5つの基本目標により、自治体運営に取り組んでいます。

策定にあたっては、これまでの計画の成果をしっかりと継承し、新たな時代の流れや鷹栖町が抱える課題に対応した、将来にわたって持続可能なまちづくりを実現する計画を目指しました。主役である町民と支える行政とが共通の将来像を描き、ともに歩みを進めることで計画をより実効性のあるものとなるよう、策定段階から町民参画のプロセスを重点として進めました。

新たなまちづくりのスタートは、誰もが予想しない幕開けとなりました。新型コロナウイルスの発生、世界的な流行です。私たちの日常生活は一変し、人々の生活や地域活動に多くの制限がかけられ、社会情勢はこれまでになく大きく変化しました。人口減少や少子高齢化はより進行し、ライフスタイルの変化や価値観の多様化、デジタル社会の急速な発展、深刻な物価高騰など、町民の生活はもちろん、自治体運営にも大きな影響を与えました。

しかしながら、本町においてはこれまで培ってきた強みや経験を活かし、本計画に示した将来像、それぞれの分野の目指す姿の実現に向け、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えたまちづくりを着実に進めてきました。これまでの5年間の成果、新たな課題、社会情勢の変化をふまえて見直しを図り、これからの5年間に向けた後期計画を策定し、新たな歩みに向けて進んでいきます。

後期計画では、これまで進めてきた住民参加の協働のまちづくりを推進し、笑顔あふれる地域コミュニティの充実を目指すとともに、多様な人材との関わりによるまちの魅力向上を図り、前述の社会の変化に伴う、新たな課題や住民ニーズへの対応はもちろん、持続可能な未来を目指す「SDGs」の視点を十分に意識して策定を進めました。

この計画は、町民の暮らしの質を高めることを追求し、鷹栖町で生活する一人ひとりが幸せを実感できるようなまちづくりを進めるための指針となるものです。

2. 計画の構成



この計画は、基本構想、基本計画、実施計画によって構成されています。

(1) 基本構想

まちづくりの理想像と基本となる考え方を明記し、それを実現するための分野別の方針を示します。基本構想は、2020（令和2）年度～2029（令和11）年度までの10年間を対象とします。

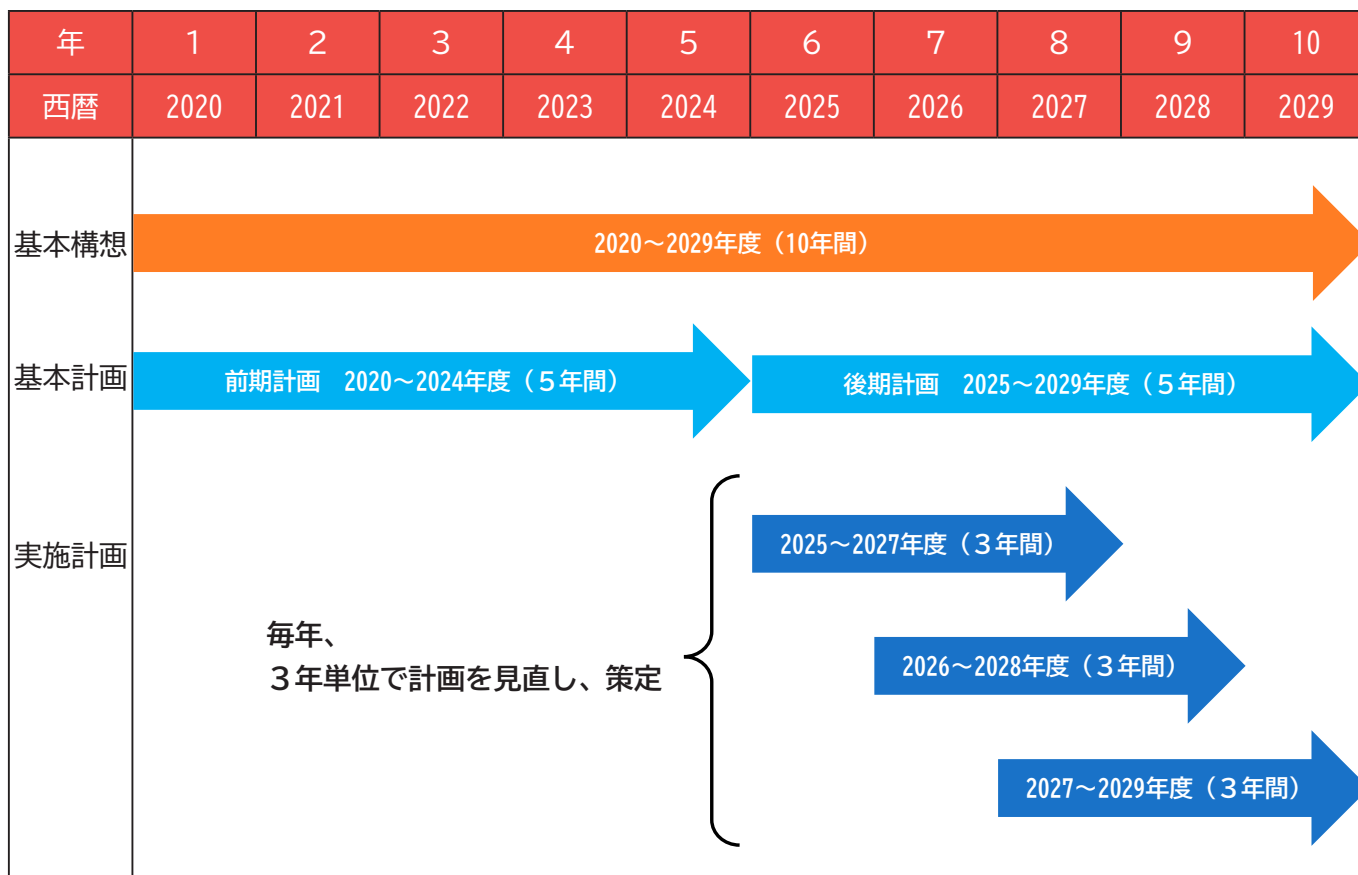
(2) 基本計画 【後期計画にて見直し】

「基本構想」を実現するための取り組むべき内容として、施策の基本的方向を示します。「基本計画」は、社会情勢等を踏まえ5年後に見直しを行います。前期計画は2020（令和2）年度～2024（令和6）年度までの5年間とし、後期計画は2025（令和7）年度～2029（令和11）年度の5年間とします。

(3) 実施計画 【後期計画にて見直し】

基本計画を実現するための個別事業を明らかにし、予算編成の指針ともなるもので、別途定めます。実施計画は、3年単位で策定し、毎年見直しを行います。

計画の構成と期間



3. 鷹栖町の現況



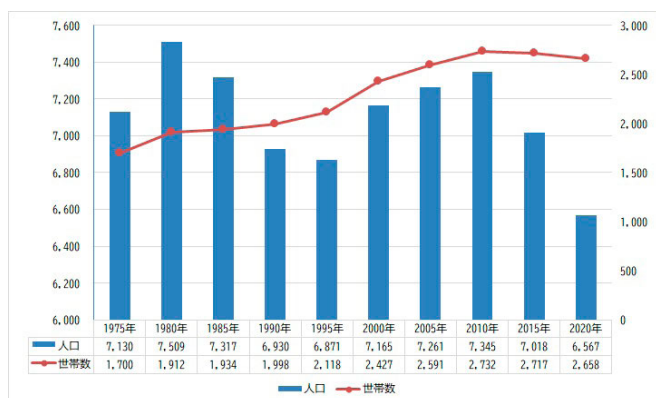
(1) 人口動向

① 総人口と総世帯数の動向及び推計

2020（令和2）年の国勢調査における鷹栖町の総人口は6,567人です。1995（平成7）年を底に増加傾向にありましたが、2015（平成27）年から減少に転じ、過去45年間で最少となっています。一方、総世帯数は2010（平成22）年まで一貫して増加してきましたが、総人口と同様に2015（平成27）年から緩やかに減少しており、2020（令和2）年では2,658世帯となっています。【グラフ1】

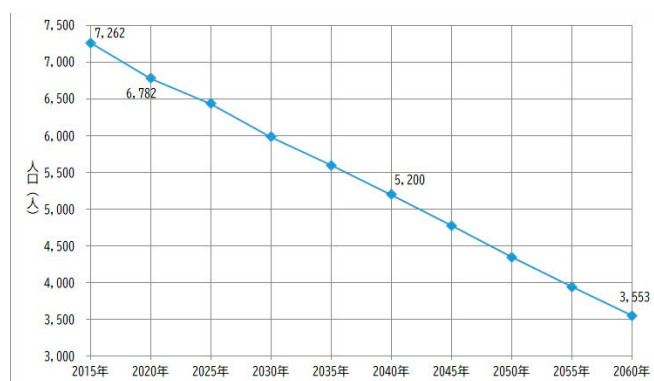
今後も人口減少は続くことが予測されており、最新の鷹栖町人口ビジョンでは、総人口が2040（令和22）年には5,200人、2060（令和42）年には3,553人まで減少すると推計されています。【グラフ2】

【グラフ1】鷹栖町の総人口と総世帯数の推移



出典）国勢調査

【グラフ2】鷹栖町の将来人口推計



出典）鷹栖町人口ビジョン

② 年齢別人口の推移

2020（令和2）年の国勢調査における高齢化率（65歳以上人口の割合）は、全国平均が28.8%であるのに対し、鷹栖町は34.6%とその割合は増加し続けています。一方、年少人口（15歳未満）の割合は、全国平均が11.9%であるのに対し、鷹栖町は12.2%とほぼ同程度の割合です。【グラフ3・4】

2010（平成22）年と2020（令和2）年の人口ピラミッドを比較すると、65歳以上の高齢層人口が増えてい一方、25～39歳の若年層が大きく減っており負担の増加が懸念されます。【グラフ5】

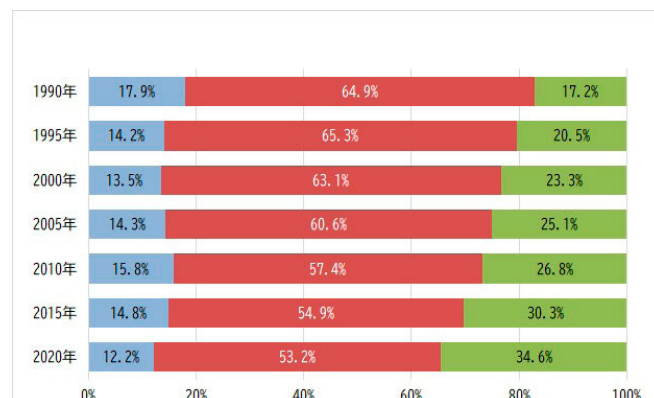
今後の推計でも同様の傾向が続くことが見込まれており、将来を見据えて適正な人口ピラミッドに近づけていくことが重要です。

【グラフ3】鷹栖町の年齢別人口の推移



出典）国勢調査

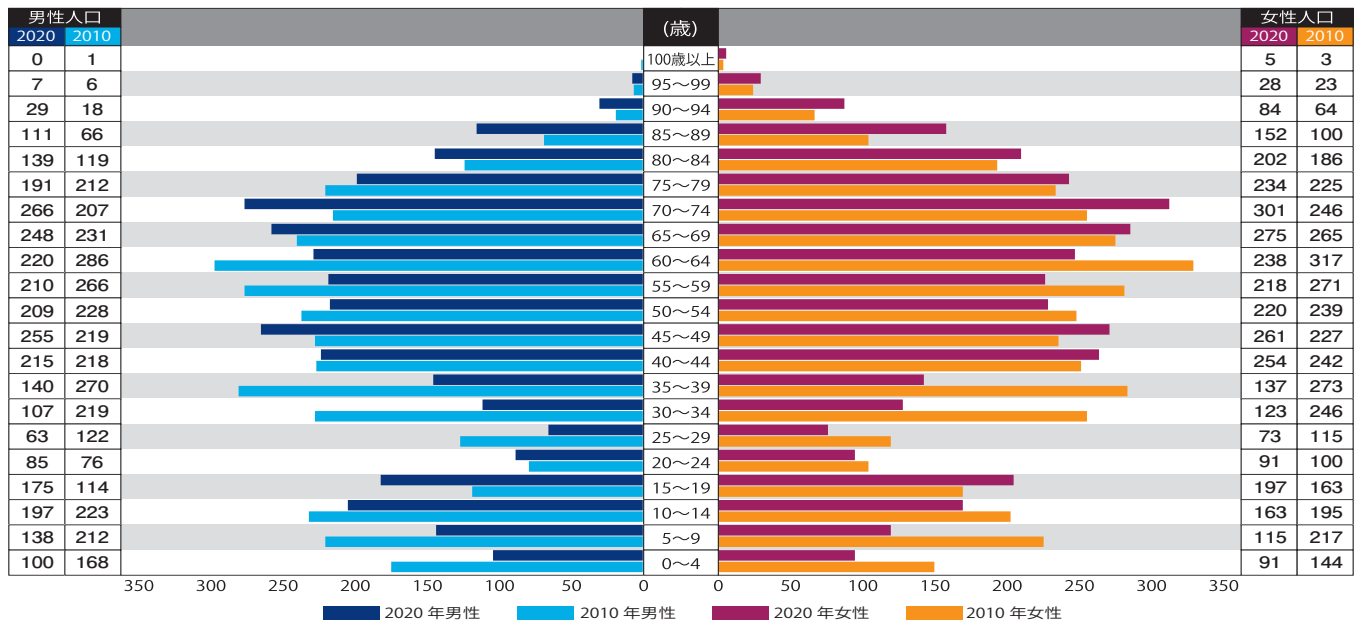
【グラフ4】鷹栖町の年齢別人口構成比の推移



出典）国勢調査

【グラフ5】鷹栖町の5歳階級別人口（2010-2020 比較）

（国勢調査をもとに集計）



③ 人口の動き

2014（平成26）年以降の人口動態をみると、出生と死亡に伴う人口の動きである「自然動態」は総じてマイナスを記録し、うち死亡者数による減少が増えています。転入と転出に伴う人口の動きである「社会動態」は、2021（平成31／令和元）年の26人などプラスを記録する年もありますが、総じてみるとマイナスが多い状況です。

本町の特徴として、出生者数とその年代が入学する際の入学数を比較すると、小学校入学時の人数が増加している傾向が見られ、子育て支援や教育環境の充実による子育て世代の一定程度の流入が続いています。

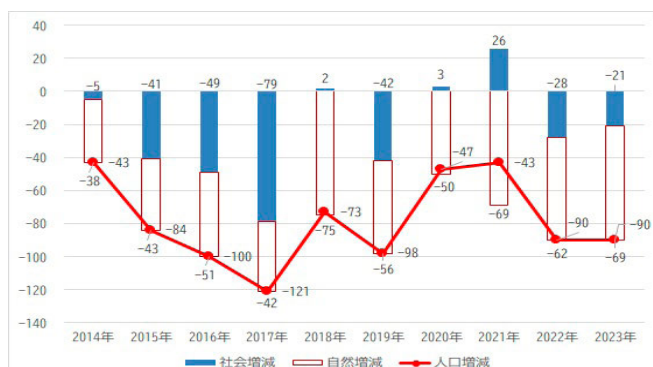
【グラフ6】鷹栖町の自然増減



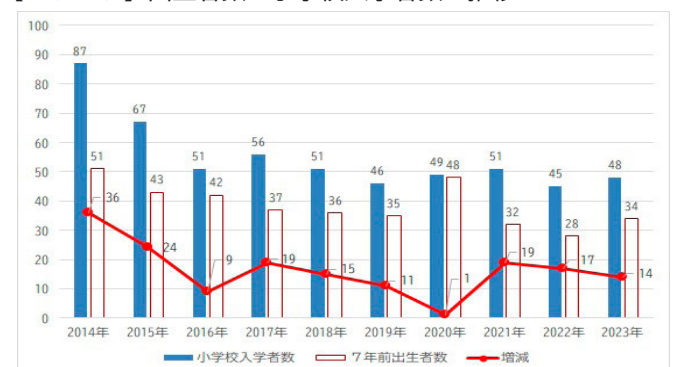
【グラフ7】鷹栖町の社会増減



【グラフ8】鷹栖町の人口増減



【グラフ9】出生者数と小学校入学者数の推移

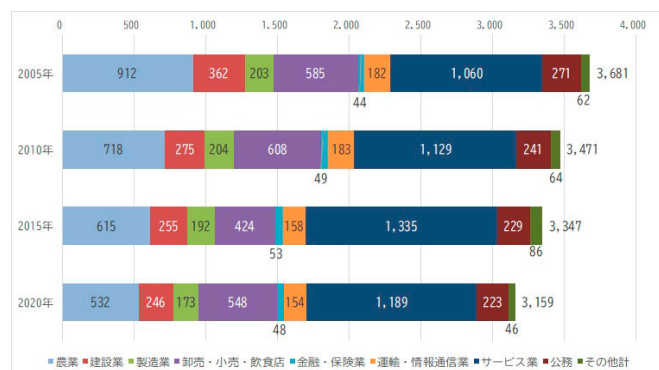


グラフ6～9の出典）住民基本台帳

④ 就業人口の動向

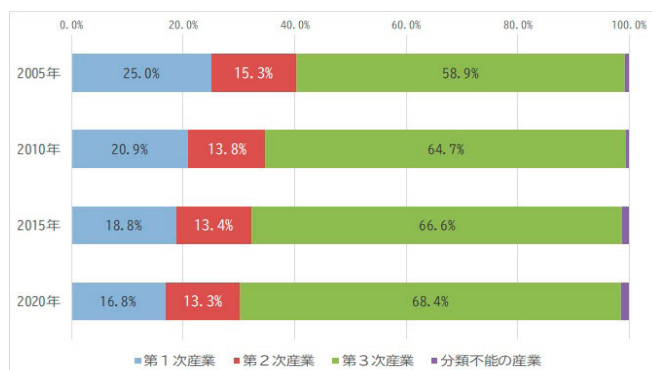
2020（令和2）年の就業人口は3,159人で、2005（平成17）年から522人減少しています。2020（令和2）年を産業別にみると、サービス業が最も多く1,189人で、就業者全体の4割近くを占めています。町の基幹産業である農業は減少が大きく、2005（平成17）年に比べ6割程度まで減っている状況です。産業大分類別の就業者の構成をみても、第1次産業就業者割合が減っているのが分かります。【グラフ10・11】

【グラフ10】鷹栖町の産業別15歳以上就業人口の推移



出典）国勢調査

【グラフ11】鷹栖町の産業大分類別15歳以上就業者の構成推移



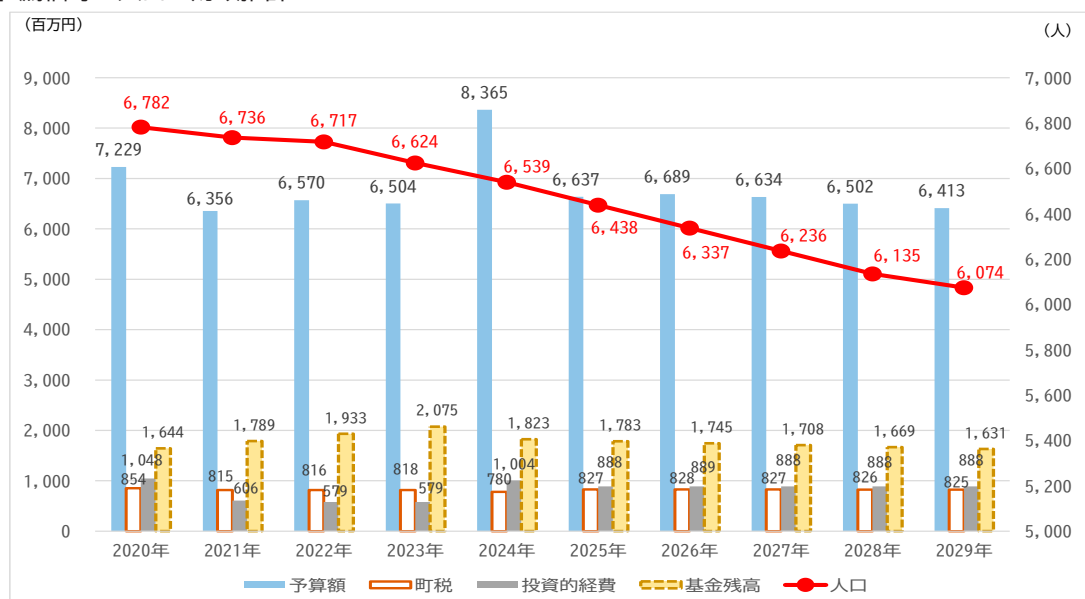
出典）国勢調査

（2）財政状況

本町を取り巻く財政状況は、歳入においては、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少により、町税の増収が見込めない状況です。前期期間においては、新型コロナウイルス感染症対策における交付金等を積極的に活用し、事業の推進を図ってきました。一方、歳出においては、人件費や公債費（借入金返済のための支出）に加え、老朽化する公共施設の維持管理や改修では、ここ数年の急激な物価高騰が大きく影響し、経常的な経費における歳出額が大幅に増加しています。

今後の社会情勢が影響する部分はありますが、歳入の伸びが見込めない中、物価は引き続き高い水準で推移することが見込まれており、より一層財源確保が厳しくなることが予測されます。人口減少、少子高齢化が進む中、一定の行政サービスの質を保ちつつ、行財政改革の推進により、効率的に行政運営を進めることが求められています。【グラフ12】

【グラフ12】鷹栖町の人口・財政推計

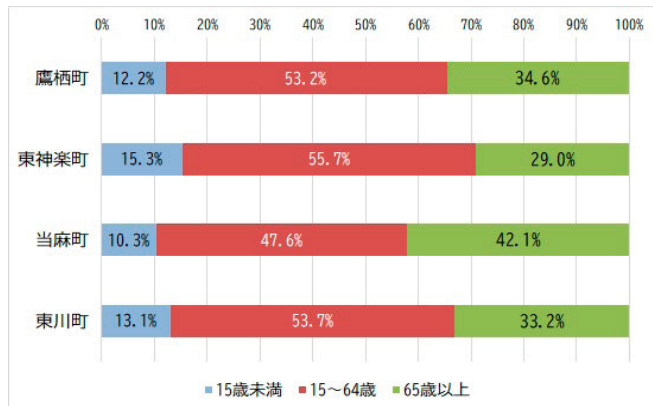


（鷹栖町資料：2023（令和5）年度まで実績額／2024（令和6）年度以降は見込額）

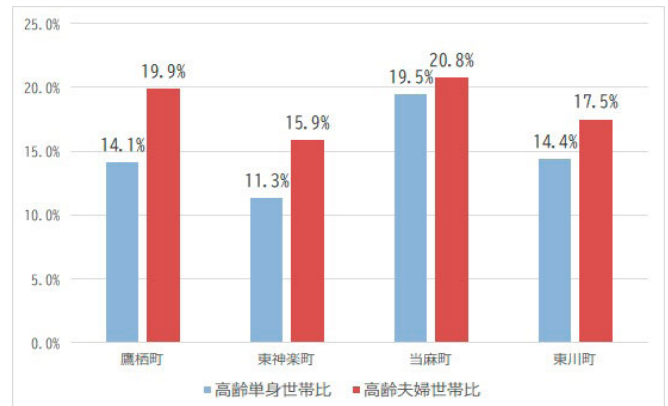
(3) 周辺地域との比較

計画策定当初と同様、鷹栖町と地理的条件や人口規模が近い周辺地域（東神楽町・当麻町・東川町）との現状を比較します。2020（令和2）年の人口および世帯状況を比較すると、人口の年齢別構成比では、東神楽町が最も若く、高齢化率も3割以下です。高齢夫婦世帯、高齢単身世帯比は、突出して多い割合ではありませんが、いずれも2015（平成27）年に比べて増加しています。【グラフ13・14】

【グラフ13】人口の年齢別構成割合の比較



【グラフ14】高齢世帯割合の比較



グラフ13・14の出典) 2020年国勢調査、統計でみる市区町村のすがた2024(総務省統計局)

産業経済面では、2021（令和3）年の鷹栖町の事業所（民間）は259カ所と最小です。同様に、製造品出荷額も3,432百万円と最小で、最多の東川町の4分の1となっています。一方、商業年間商品販売額は最多であり、2020（令和2）年で14,121百万円となっています。【図1】

図1 産業経済、生活関連、教育関連データの比較

	指標	鷹栖町	東神楽町	当麻町	東川町	データ年次
産業経済	事業所数【民間】（所）	259	315	269	295	2021年
	従業員数【民間】（人）	2,517	3,077	1,844	2,806	2021年
	農業産出額（千万円）	351	297	416	423	2022年
	製造品出荷額等（百万円）	3,432	4,141	6,597	13,728	2021年
	商業年間商品販売額（百万円）	14,121	12,621	10,753	9,041	2020年
生活関連	小売店数（事業所）	32	58	57	55	2021年
	大型小売店数（事業所）	0	1	0	0	2021年
	飲食店数（事業所）	14	25	15	19	2021年
	ごみのリサイクル率（%）	33	8	11	10	2021年
	一般診療所数（所）	2	3	4	3	2021年
	医師数（人）	1	10	3	3	2020年
教育関連	保育所数（所）	3	2	1	1	2020年
	保育所等在所児数（人）	170	100	83	169	2020年
	小学校数（校）	2	3	2	4	2022年
	小学校児童数（人）	305	658	276	480	2022年
	中学校数（校）	1	1	1	1	2022年
	中学校生徒数（人）	193	331	141	232	2022年
	高等学校数（校）	1	0	0	1	2022年
	高等学校生徒数（人）	98	0	0	208	2022年

出典) 2015年国勢調査、統計でみる市区町村のすがた2024(総務省統計局)

4. 策定方法



後期計画の策定にあたっては、前期期間における事業の評価検証を行うとともに、改めて「まちづくりに関するアンケート調査」を実施し、計画がスタートしてからの変化を把握しました。また、住民参加の策定プロセスを継続し、地区ごとのまちづくり懇談会などで住民同士が思い、意見を共有しながら進めました。

(1) まちづくりに関するアンケート調査

▶実施時期

2024年6月28日（金）～7月24日（水）

▶対象者、調査方法

2024年6月1日現在で鷹栖町にお住まいの18歳以上74歳以下の方の中から、地区別、年代別、男女別の構成を考慮したうえで、無作為に1,000人を抽出して対象とした。

▶有効回答数

358件（回答率：35.8%）

▶集計結果（要旨）

① 暮らしについて満足度が高い10項目（5点満点、全項目の平均は3.13点）

順位	項目	平均点
1	子どもたちの学校教育環境	3.62
2	ごみの収集、リサイクルの取組	3.61
3	安心して出産・子育てができ、子どもが健やかに育つ環境	3.58
4	芸術・文化活動が活発	3.57
5	新規就農者や農林業に関わる方々の活動	3.54
6	除雪、排雪体制	3.52
6	情報端末活用の整備や利便性の向上	3.52
6	病気の予防や健康を維持するための活動	3.52
9	農地の整備や集積化	3.49
10	安全・安心な食を生産する農業の取り組み	3.48

② 暮らしについて満足度が低い10項目（5点満点、全項目の平均は3.13点）

順位	項目	平均点
1	バスなど公共交通の体制	2.06
2	買い物などの日常生活の環境	2.08
3	町内で働く場所や働く機会	2.25
4	魅力的な観光の取組	2.29
5	農業・商工業の連携による魅力ある商品開発	2.60
6	働いている世代が学ぶ機会や余暇活動を楽しむ環境	2.77
7	安心できる医療環境	2.79
8	女性が学びや交流を深められる機会や余暇活動を楽しむ環境	2.81
9	地元の農産物を購入しやすい環境	2.82
10	商店街や商工業の活性化	2.87

③ 10年後の鷹栖町がどのようなまちになってほしいか（複数回答、回答の多かった4項目）

順位	項 目	回答率
1	安心して子どもを産み、育てやすい環境のまち	54.5%
2	健康づくりや福祉が充実し誰もが元気に暮らせるまち	40.5%
3	災害や犯罪、事故が少ない安全なまち	35.8%
4	学校教育や生涯学習（文化活動、スポーツなど）の環境が充実したまち	25.7%

④ あなたにとっての「豊かさ」とは（複数回答、回答の多かった3項目）

順位	項 目	回答率
1	心も体も健康な状態	71.2%
2	円満な家庭、家族の幸せ	36.6%
3	衣食住が充実していること	34.1%

（2）まちづくりセミナー

様々な分野で活躍する講師から先進事例や取り組みを学び、参加者同士で思いや意見を共有する「まちづくりセミナー」は、社会情勢やまちづくりの課題をふまえてテーマを設定し、計画がスタートしてから継続して開催しました。

2020年11月8日
武田 昌大氏



+1℃体温を高める発熱家のまちづくり

2021年2月23日
藤原 明文氏



地域に眠るホンモノの資源 ヒト・モノ・コトの見つけ方

2021年8月6日
松村 博文氏



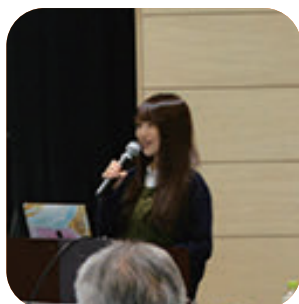
“自分ごと”で考える
と“まち”は変わる

2021年12月19日
草野 竹史氏



関係人口と創るまちづくり

2022年10月8日
相川美菜子氏



笑ってまなぶSDGs

2023年11月18日
菊池 佳氏



北欧のサステナブルなまちづくり

2024年7月27日
守時 健氏



稼ぐ？バズる？タカステナブル！

(3) 計画策定時の経緯

後期計画においては、まちづくりの理想像と基本となる考え方の基本構想については、計画期間の10年を対象としており、見直し対象とはしておりません。基本構想に向けた策定当初の経緯についてまとめました。

① たかす未来予想図ワークショップ

パレットヒルズを舞台に、小中高生など若者から子育て世代、シニア世代までがごちゃまぜで、「たかすの未来予想図を描こう」をテーマにワークショップを実施しました。第1回は、地域の魅力をあらためて見つめなおし、「まちの未来」に向けて大切にしたいことについて考えました。この時に出された意見を参考に、長さ4メートルほどの巨大なぬり絵「たかす未来予想図」を制作し、第2回はこのぬり絵に参加者みんなで色付けする作業を行いました。

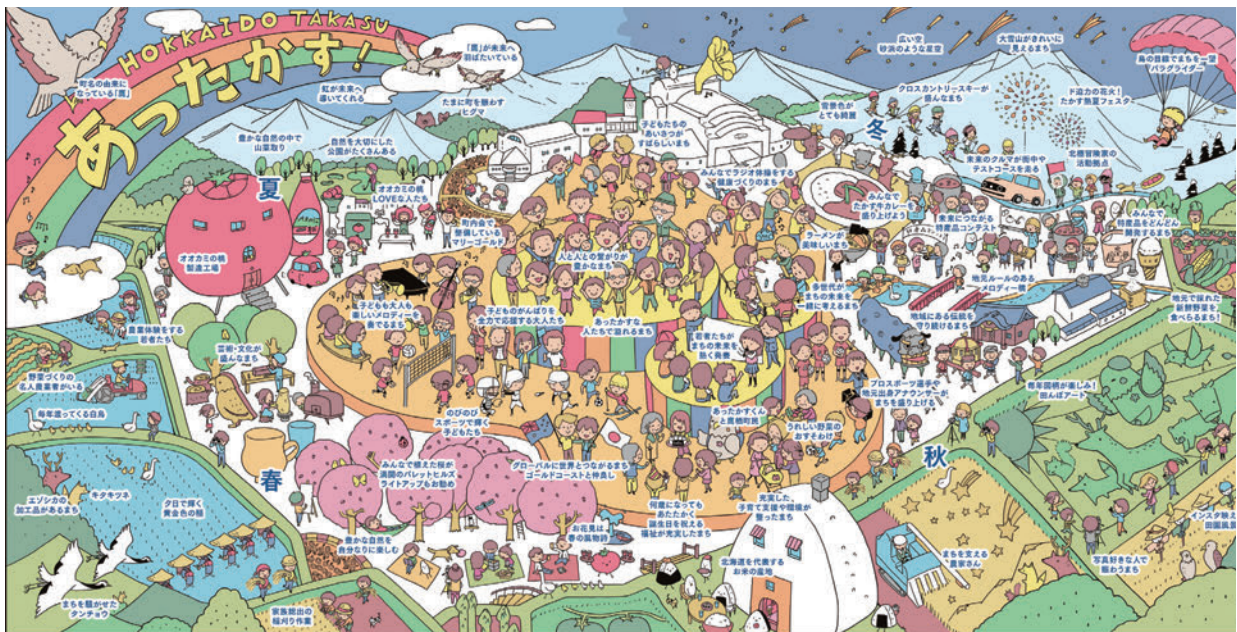


▶ワークショップで発表された意見（要旨）

■「人」が最大の魅力

⇒【未来に残したいもの】

- ・人のつながり、小さな町だからこそ人と人の距離が近い、コミュニティ
- ・子どもたちのあいさつの素晴らしさ、野菜のおすそわけ、近所の方が声をかけてくれる
- ・スポーツや文化活動で活躍している子どもたち
- ・福祉のまち、子育て支援、多世代のつながりと交流
- ・お米がおいしい、おいしい野菜や農産物がたくさん、オオカミの桃 LOVE



② 地区ワークショップ

2018年11月から2019年1月にかけて、5つの公民館地区ごとに各3回ずつ、全15回のワークショップに取り組みました。「10年後どのような地区になってほしいか」「地域の資源探し」「地域ならではの理想の暮らし」などをテーマとして、地区のことやまちの未来について話し合いました。

各地区での取り組み成果を、次のページからご紹介します。

【鷹栖地区】

■ 10年後の未来の姿■

- ・ 宅地を増やすのではなく、暮らしを大切に、自然と人が増えるまち。
- ・ 人とのつながりを大切に、地域で子育てを支える。
- ・ コミュニティスクール&コミュニティタウン、住民自らの自助の力で地域づくりを進めよう。
- ・ 住民自らが鷹栖町の良さを認識し、伝えることで人を増やそう！
- ・ 10年後、子どもたちの声が身近で聞こえるまちであってほしい！
- ・ 子どもの頃から町の良さを知る教育をして郷土愛を育む。
- ・ 子育て世代と高齢者が、互いのちょっとした困りごとを解決しあう！



■地区のにぎわいを増やそう■

- ・ 飲食店に看板メニューや個性があるように、それぞれにカラーがある多様なお店があることで中心市街地の魅力が高まる。
- ・ 子どもが安心して利用できるお店、気軽に立ち寄れるスペース。
- ・ 既存イベントもうまく活用して、日常の「心のにぎわい」につなげよう。大人が夢中になって楽しめるイベントを！
- ・ 今ある資源をどのように使うか、若い人たちが考え、努力していくことが大切。空き家や空き店舗の活用。
- ・ 単に「お店がほしい」ではなく、お店が持続しなければ意味がないので、住民参加のお店づくりで、住民とお店とが互いに支え合う責任を持つこと。

【北野地区】

■ 10年後の未来の姿■

- ・ 地域の人が楽しく交流できる地域に。
- ・ 顔を合わせて、つながりを大切にしたいまち。
- ・ 各世代が役割を持って支えあえる地区。
- ・ 社会で活躍できる子どもたちを育てる鷹栖町！
- ・ 住宅地と農村地区とが、一体感を持って地域活動を進めてきた北野地区の特徴を生かして、つながりと住民活動を活発にしたい！



■地区のにぎわいを増やそう■

- ・ 住んでいる町民の満足度を高めることが何より大切。
- ・ 公民館活動は暮らしを充実させるキーワード。
- ・ 地域づくりの担い手を育成することが必要。
- ・ 参加するだけではなく、子ども自身が企画して実現するイベントを地域の大人でサポートする。
- ・ 地域と行政とで連携して子育て環境を充実し、魅力あるまちにする。
- ・ 子育てがひと段落した頃に、何かにチャレンジしたいという夢を実現するための支援や環境があると良い。
- ・ ぴんぴんころりを目指して、身近に畑がある環境を生かした農作業や、ウォーキングでの健康づくりを楽しむ。
- ・ シニア期にはこれまでの人生経験を生かして「子育てデザイナー」「起業デザイナー」などとして、社会的役割を担いたい。

【中央地区】

■ 10年後の未来の姿■

- ・将来も住み続けたいと思う住み心地の良さが中央地区にはある。今ある魅力を大切に、未来を考えていくことが大切。
- ・移動や交通などの地域課題を解決するシェアリング（共有・交換）のまちづくり。
- ・食や農、景観を生かして人が訪れる魅力ある地域にしたい。
- ・田園風景、黄金色の農地（稲作）を守りたい。
- ・施設野菜の農業も普及して農業が元気な地域に。
- ・農業者と非農業者がうまく共存できる地域。



■地区のにぎわいを増やそう■

- ・公民館行事は全世代が参加して、つながる地域。
- ・おいしい野菜や様々な名人がいるので、地区の資源を生かして子どもたちに伝承する、様々なふるさと体験を子どもたちに提供。「将来戻りたい」と思ってもらえるように地域一体で子どもを育む。
- ・農業でしっかりと生計がたてられる。
- ・消防団と地域住民とで、一緒になって防災のことを考えて地域力を高める。
- ・視野を広げるため1度町外に出て、学んだことを鷹栖町に戻って生かしてもらう、Uターン者歓迎！
- ・地域として持続するためにも、子どもたちや若い世代を含めた多世代で支え合う地域でありたい。

【北斗地区】

■ 10年後の未来の姿■

- ・住みなれた地域で元気に暮らし続ける。不便になったから街に出て行けではなく、どうしたら地域で元気に暮らせるかを自分たちで考えていく。
- ・若い人も高齢者も働き続けられる場所がある。
- ・子どももシニア世代も元気に過ごせる、今以上につながりが強い地域で充実した毎日を実現。
- ・北斗の強み「団結力・行動力・和気あいあいとした雰囲気」を維持。
- ・新たに人が来る魅力ある地域。



■地区のにぎわいを増やそう■

- ・公民館行事は北斗地区以外からの参加も大歓迎なので、色々な地区から参加して盛り上げてほしい。子ども縁日など取り組みを工夫している。
- ・子どもは少なくなったが、子どもが楽しめる資源があるので遊びに来てほしい。
- ・若い世代が子どもをきっかけに公民館活動に参加して、将来の地域の担い手として地域の活動を支えてほしい。
- ・若い世代とシニア世代とが混ざり合い、互いに支え合いながら暮らすことができる住宅環境が実現すること。
- ・農業をずっと続けながら、プラスアルファ、誰かの役に立つことをして地域で過ごしていきたい。
- ・公民館（地区住民センター）を拠点としたサロン、介護予防。
- ・交通などの不便も地域の「団結」で解決していきたい。

【北成地区】

■ 10年後の未来の姿■

- ・おいしいお米がとれる地域の水田を次の世代に渡していく。
- ・地域特性を生かした低農薬の野菜づくりなど、多様な農業基盤のある地域として確立。
- ・お米、野菜、ブルーベリーなどを生かして、30年後に最も農業基盤が充実した地区にしたい。
- ・地域に溶け込む若い人と一緒に、元気な農業を維持する北成。
- ・互いに気遣いできるつながりを生かして、安心して暮らせる北成。
- ・若者との交流促進による元気な北成。



■地区のにぎわいを増やそう■

- ・「農業体験+きれいな星空観測」という北成オリジナルの体験を通して、子どもたちに地区の良さを感じてもらいたい。
- ・小学生の子どもたちから「こんにちは」とあいさつをしてくれたことは、本当に感激した。鷹栖町の教育の素晴らしさで、いつまでも大切に続いてほしい。
- ・農業だけでなく、地区の資源をすべて生かして、地域全体でひとつの商社を運営するイメージで、魅力あるしごとをつくり、定住につなげる。
- ・仕事以外で地域のつながりを深めて、暮らしを充実したものにする。みんなが仲良く元気に住み続けたい。
- ・周囲を山に囲まれ、水田が広がる、自然豊かな北成地区の景色は、ふるさと感じさせてくれる、ホッとする気持ちを与えてくれる特別なもの。
- ・デザイナーなど若者が、新しい地区の姿をデザインしていくことも面白い。

③鷹栖町の未来をつくる会

住民ワークショップの取り組みの総まとめとして、特に重要な視点や課題を導き出すことを目的に、約50名の方に参加いただいて開催しました。

移住者や町内で活動する方の対談、福祉分野で先進的なまちづくりを進めている事例の講演なども企画し、学びを深めながらグループワークでの議論を進めました。

【第1回】鷹栖町での暮らしと仕事

【第2回】10年後の鷹栖町をこんなまちに！～今から私にできること～

【第3回】10年後の鷹栖町～目指す姿のキャッチフレーズを考える～



計3回にわたり、ワークショップを重ねた結果、「10年後の鷹栖町の将来像を考えるにあたり、外すことのできないキーワード」及び「将来像を表現するキャッチフレーズ」が次の通り提示されました。

将来像を考えるとときに外すことのできないキーワード

- みんなもれなく幸せになれる
- 住民同士のつながり・関係性の深さ
- 創造する
- あったかすな優しい住民性
- 持続性がある豊かな産業
- 魅力（潜在的な魅力をもっと掘りおこそう）
- 生き生き活躍できる場がある
- わくわく・新しいものを築いていける
- 子育て環境が充実・戻ってきたいと思えるまち
- 農業で稼ぐ、安全な食がある
- 多世代、多様な人が活躍できる（障がいや高齢であっても特技を生かす）
- 助け合い（住民自らまちづくりをする、参加、住民力、つながり、支え合い）
- コーディネーショントレーニングで人間力を高める
- オープンマインド・多世代、移住者、多様性を大切にするまち
- 笑いのあふれるまち
- 「自然」という財産の利活用
- よりあったかすを目指したい
- 子ども
- 未開な資源（ヒト・モノ）の発見と活用
- 元気（健康、快適に過ごす）
- いける鷹栖・子どもが戻ってきたくなる
- 現在の鷹栖の良いところを持続したい
- 歳を重ねても暮らし続けたい
- 働き続けられる、どの世代も輝き活躍できるまち

「10年後の鷹栖町」をイメージしたキャッチフレーズ

- 毎日帰りたい いつか帰りたい My Home Town あったかす
- わくわくを自給できるまちづくり （おすそわけ）
- ルーバンあったかす
- こんなところにあったか すごいマチ
- もれなく幸せ  あったかす
- たかすびと 総活躍！
- たかすびと プライド
- おかえりなさい あっ！と home みんなで創る 米 たかす